

第4回 ワークライフバランス/男女共同参画推進 研修会

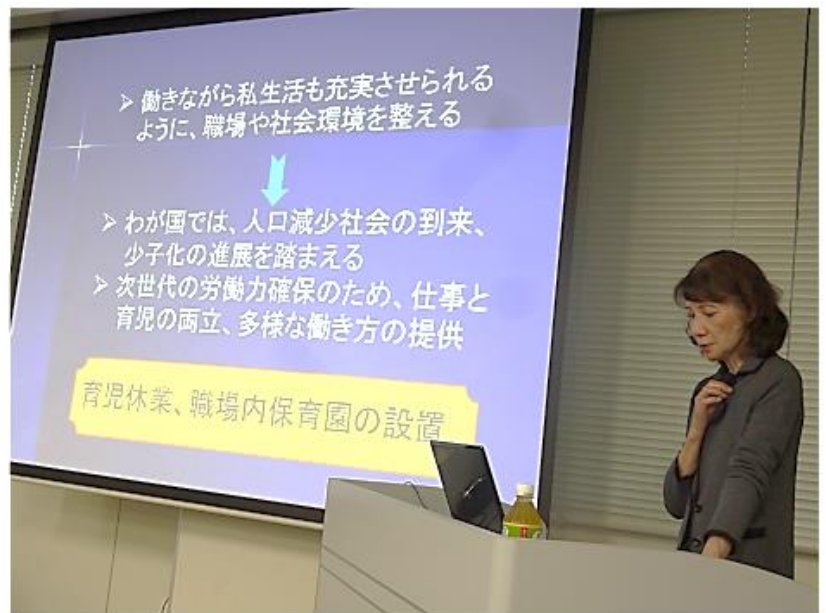
平成 30(2018)年 12月 5日

女性が働き続けるためには・・・

講師：石崎由美子氏（元 福山大学生命工学部教授）

この3月まで本学の生命栄養科学科で教授として教鞭をとられていた**石崎由美子先生**を講師としてお招きし、12月5日（水）、16時30分から薬学部プレナリーセッション室で、ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）研修会を開催しました。

数十年前の日本は、まだ育児や介護に関する制度が十分に整っておらず、出産後女性が働き続けることに対しても理解が低く、**子育てをしながら働き続けることを選択した女性は、多くの困難を乗り越える必要がありました。**石崎先生はまさにその時代を過ごされており、**働き続けるという選択肢が容易となるように日本社会の環境変化に寄与されてきた世代**といえます。現在、様々な制度によって育児や介護に対する支援が提供されており、また、女性が働き続けることへの社会的な認識も大きく変わりました。労働力の確保という超高齢社会の日本が抱える新たな社会問題もあり、むしろ、育児や介護を理由に離職する人達を減らすことが課題として認識されるようになりました。わずか数十年の違いですが、**協力しあえる職場の仲間や理解のある家族の存在が、子育てをしながら働き続けるための必須条件**であった石崎先生の時代と現在とでは隔世の感があります。日本の女性の就業率はつい最近まで、**子育てに係わる年齢層の就業率が、他の年齢層に比べて落ち込みが大きく、M字カーブ**を描いていました。このM字カーブは欧米では観察されません。子育てに専念することを希望した選択ではなく、これまで日本では**子育ての**



期間中は仕事を止めざるを得ない状況にあったことを物語っています。しかし、現在でも似たような状況が潜在的に続いていることは、石崎先生が講演の中で述べられたように、**女性の就業率が高い県は、3世代同居率が高い県**と重なっていることから推測できます。つまり、**家族からの支援無くしては、女性が社会の中で働き続ける**

ことは未だ厳しい現状にあることが指摘されます。

石崎先生ご自身の育児や介護の経験に基づいた講演に心を打たれた参加者は多かったと思います。育児や介護の支援制度が整わない中、石崎先生の世代の方々頑張りが続けられたことによって、社会の認識が変わり、後進に道を切り開くことに繋がりました。この度の講演会で、**自分の人生に向き合うことや、自分自身の価値観を押し付けるのではなく各人の選択を尊重することの大切さ**を、石崎先生からのメッセージとして受け取りました。

数十年前に比べて、社会の認識も変化し、制度も整いましたが、**日本のジェンダーギャップ指数が149カ国中110位(2018年データ)**という現状は、男女共同参画推進やワークライフバランスについて未だ多くの課題が残されていることを意味しています。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方は少なからず支持されています。育児や介護の仕事は女性の役割であるとの認識が未だに根強く社会の中にあることも事実です。イクメンという言葉が誕生しましたが、男性の育児休暇の取得率は低迷しており、男性が育児や家事に割く時間は、欧米に比べてかなり低い現状にあります。さらに、社会のリーダー的存在にある女性の割合は欧米諸国に比べると極めて低く、しかもこの数十年間、ほとんど増加していません。石崎先生の世代の方々多くの課題を乗り越えられてきましたが、次の世代にも新たな課題や困難が待ち受けていると思います。次の世代を担う人達は、勇気やしなやかな強さを持ってそれを乗り越えてほしいと願います。**ワークライフバランスがとれた男女共同参画がなされた日本社会の実現は、一人一人がそれを現実化して達成されるもの**と思います。この度の石崎先生のご講演が、将来、講演会に参加した次の世代を担う学生の皆さんの困難を乗り越える力を呼び覚ますものになってほしいと願いました。

以下、講演会に参加した学生の皆さんから寄せられた感想の中から抜粋したものを紹介します。

○まだまだ育児をしながら仕事をする女性に理解の無い時代に、2人の子供を育てあげたのはすごい大変だったのだと感じることができました。子どものお迎えや熱になった時に仕事を切り上げなければいけないのは仕方がないことなのに、「いつまで働く気だ」などと心のない言葉をかけられて私まで辛い気分になりました。

○今回、ワークライフバランスの公演を聞き、今と昔の女性の社会の在り方が違うなとよく感じました。先生のごこれまでの経験を語っていただき、今は昔よりもマシにはなっているものの、まだ改善の余地があるのではないかと考えました。

○育休やその他の制度を使おうとしましたが使えなかったというお話から、形だけの制度ではだめだと思いました。男女平等に暮らしていくためには女性だけが子育てをするのではなく、仕事も子育ても協力してやり遂げることが重要だと思います。まだまだ社会に対して理解は深まっていないと思いますが、男性が積極的に育児に参加し、育休も活用することで少しずつ変化していくと考えました。


○昔は男の人は仕事、女の人は育児、家事をすることが当たり前で、男の人は亭主関白なイメージだった。女性が働き続けるために社会に訴えかけてくれたおかげで、産休、育児に関する様々な法律ができたことがわかった。今の時代は女の人だけが育児、家事をするのではなく、男の人も家庭で手伝う「イクメン」「育児パパ」といった言葉が生まれるくらい時代が変わってきたんだと改めて実感した。女性が働きやすい環境作りが進んできていて、恵まれた時代になったなと思った。

○女性が働き続けるためには、周囲の人に理解してもらうこと、両親、パートナーの協力が大切だと思いました。家庭(育児)と仕事の両立の難しさを先生の話聞いてあらためて感じました。最後に、先生がおっしゃっていたように、資格はいざというときの切り札になるので、今取れる資格はしっかり取らないといけないなあと思いました。今回の講演で学んだことをしっかり、将来に役立てていきたいです。

「ワーク・ライフ・バランスの希望と現実」についての調査によると、現実的には、男性は「仕事」を一方、女性は、「生活」を「優先」と回答しており、男女間で差異がみられます。女性が結婚・育児、そして介護をしながら仕事を続けていけるように、近年では様々な働き方改革がなされています。しかし、現実には、家庭や職場の中で様々な問題に直面することが多くあります。それをいかにして乗り越えたら良いのか、今回の講師自らの経験を交えながら、これから社会生活をしていく若い人に考えてもらえる機会になればと思います。

講演テーマ：

女性が働き続けるためには・・・

 2018年12月 5日(水) 16:30～17:45

福山大学 薬学部 34号館 2階
プレナリーセッション室



講師：石崎由美子氏

元 福山大学生命工学部
生命栄養科学科 教授